



日本文化学科マガジン

ことばの
プロになろう！

最新の学科
情報が満載！

受験生への
アドバイスも！

2023

日本語って 不思議がいっぱい！



日本文化学科は「ことばのプロ」を目指す学科
科なんだけど…ことば(言語・日本語)を学
ぶってどういうことなのかな？ そこに「文
学」はどうかかわってくるのかな？
そんな疑問に学科長の桃原千英子先生がイ
ンタビュー形式でお答えします！

—— 日本文化学科で学べる「日本語学」「言語学」ってどんな学問なんですか？ 高校までの「国語」とどう違うんですか？

桃原先生 「日本語学」「言語学」と言って色々なジャンルがあるので、いくつか例を紹介してみますね。高校までの国語で「文法」を勉強しますよね？ 大学でも「文法論」という科目がありますが、高校のようにただ活用形を覚えるというような授業とはちょっと違うんです。例えば「**駅で先生に会った**」という文と「**駅で先生と会った**」という文があるとします。2つの文の意味の違いを説明するときに、文法論が必要になってきます。

—— 「先生に会った」と「先生と会った」の違いですか？ 「先生に会った」というのは偶然会ってしまった感じがします。なんとなく、ですが。桃原先生 そうですね。「格助詞」の用法の違いによって説明できるのですが、「に」は「動作の向かう相手」を表すのに対して、「と」は「一緒に動作を行う相手」を表します。だから、「先生に会った」と言うと、動作の主体は「私」で、「先生」は直接には関係しませんから、偶然出会った、というニュアンスも生じてきます。一方、「先生と会った」と言うと動作の主体は「私」と「先生」の両方になるので、約束して駅で待ち合わせた、という意味になります。このように、格助詞の違いによって、表される出来事が異なってくるんですね。言葉の仕組みを学ぶのが大学での「文法論」です。

—— 言語学って奥が深いですね。他にも面白いジャンルはありますか？ 桃原先生 「語用論」も面白いですよ。突然ですが、レストランで食事をしている時に、「その塩とれる？」と言われたら、どうしますか？

—— 普通に塩を取って渡します。「どうぞ」って。桃原先生 そうなんです。でも、その会話って、よく考えたらどこおかしくない？ 書いてみると、「**その塩とれる？**」→「**どうぞ**」となります。—— ん？ どういうことだろう… あ、そうか！ 塩を取ることができるかどうかを質問されているのに、「どうぞ」って答えている？

桃原先生 そうなんです。「その塩とれる？」は「YES・NO 疑問文」だから、その答えは「はい」か「いいえ」じゃないとダメですよ。でも私たちは「はい」とも「いいえ」とも答えずに、自然にそれを「依頼」だと受け止めて、塩を「どうぞ」と渡してしまうんです。こんなふうに、私たちの会話は文字通りの意味とは違う意味で成り立っている場合もかなりあります。語用論では、こうした日本語の不思議な現象を研究していきます。

—— どんどん面白くなってきました。「認知言語学」というのも聞いたことがあるのですが、どんな学問なんですか？

桃原先生 認知言語学というのは、人間がもっている認知能力と関わらせて言語を研究する学問です。例えば、「**昨日、〇〇さんとお茶に行った**」と聞いて、どんな場面を想像しますか？

—— そうですね…。〇〇さんと喫茶店に行った場面を想像します。桃原先生 じゃあ、その喫茶店では何を飲んだと思う？

—— ジュースとかコーヒーかなあ。これも、なんとなくですけど…。桃原先生 そうですよ。でも、やっぱり何かおかしくないですか？ 「お茶に行った」と言っただけなのに、「ジュースとかコーヒーを飲んだ」ことになっていますよね。「お茶」は飲み物の種類の1つなのに、会話の中では「ジュースやコーヒー」の総称になっています。「飲み物を飲みに行った」なら、ジュースやコーヒーが入るのは分かるけど、それらと同じ飲み物の種類の1つに過ぎない「お茶」が代表のように扱われるのは、本当はすごく不思議な現象なんです。これは「シネクドキー」という比喻の一種で、狭い範囲を指す語で広い意味を表しています。こんなふうに認知言語学では「比喻」の世界も研究対象になります。他にも、本当は羽が回っているのに「扇風機が回る」と言ったり、運転手の運転の仕方が危ないのに「トラックが危ない」と言ったり。こうした不思議な言語現象も全て「比喻」の理論を学ぶと説明できるようになります。

—— 日本語を学んで、なんだか心理学みたいで面白そうですね。



桃原先生 いま紹介した領域の他にも、意味論や若者言葉や方言などを研究する「社会言語学」とか、海外の言語と日本語を比較する「対照言語学」とか、談話の分析などを行う「応用言語学」ともあります。「音声学・音韻論」も面白いですよ。日本語にはまだまだ解明されていない不思議な点も多いので、一緒に日本文化学科で「ことば」を極めましょう！

カリキュラムを横断する文学

—— もう一つ教えてください。日文は言語学を中心としたカリキュラムになっていますが、それを横断する学問として、「文学」が学べるという特徴もありますよね。文学とことばの研究はどうつながるのでしょうか？

桃原先生 文学研究では研究対象とする詩や小説を〈テキスト〉と呼びます。〈テキスト〉の語源はテクスチャー、つまり「**織物のこと**」なんです。織物って、縦糸と横糸が絡まり合っていてできていますよね。詩や小説も、実は織物と同じで、いくつかの「ことば」によって織り上げられているわけです。文学研究では、その織物を構成する糸の一本一本をさまざまなやり方で検証していくんです。

—— ストーリーを楽しめばいい、というわけではないんですね？ 桃原先生 主人公の気持ちに寄り添って物語を楽しむというのは、小説の読み方の一つです。しかしそれだけでは、文学研究は「おもしろかった！」「感動した」で片付けられるものになってしまいます。主人公以外の視点で読んでみたり、ストーリーを解体したり、些細な一語に注目して読みを深めていったり、文学研究はそういうやり方で進めていきます。

—— 具体的にはどんなことをするのでしょうか？ 桃原先生 例えば、一つの小説を解釈するとき、その小説が書かれた時代・小説の舞台となった時代はどういう時代であったのかという同時代史の研究が必要になります。「**歴史学に近い**」イメージですね。また、登場人物の心理や行動を説明するために精神分析の理論を用いることもあります。「**心理学的な勉強**」も入ってくるわけです。そして、「人は何のために生きるのか」などの難しいテーマを考えるときには「**哲学の思想**」に基づいて考察したりします。文学研究は、いま目の前にあることばを手がかりにして、多くの領域の学びを横断する学問なんですよ。そうやって、いままでにはなかった新しい読み方をつくっていくんです。

—— 小説に何が書いてあるかを理解するだけではなく、書かれたものを手がかりに読み方を広げていくんですね。

桃原先生 その通りです。詩や小説は、詩人や作家が頭の中で組み立てた独立した芸術表現なのではなく、社会や読者と強く結びつくものです。だから、文学研究はとても広い問題に取り組んでいることばの研究ということになりますね。

—— 今日はありがとうございました！





3つのコースの魅力語る



日本文化コースってどんなコースなの？

下地賀代子先生 日本文化コースとはどんなコースなのでしょう？ まずは4年生の皆さんから受験生の皆さんへ説明してもらいましょう。

Aさん このコースでは、日本語学や日本文学、日本の芸能などに関することを幅広く学ぶことができます。古典文学や伝統芸能といった表現作品はもちろんですが、最近の映画やアニメ、若者が使う言葉なども対象になっている点が個人的には良いと思っています。

下地先生 そうですね。まさに「日本文化」に関する様々な知識を学ぶためのコースと言えますね。国語科の教員養成課程を履修している人が多いのもこのコースの特徴かな。



コースのおすすめ科目は？

下地先生 ところで、みなさんはこれまでにたくさんのコース科目を受講してきたと思いますが、その中で特に印象に残っている授業はありますか？

Bさん 私は1年生のときに履修した「日本語学入門」が印象に残っています。語構成とか少し難しい内容もあったけど、ジェンダー差とか世代差とか、一言で「日本語」と言っても色々な違いがあるということを学んで、まさに

目から鱗の連続でした。それ以来、友だちや家族が使っている言葉が気になるようになりました。

Bさん 「日本語学入門」は私も受講しましたが、その後に、2年次や3年次で履修した科目にも関連する内容が出てきたのが印象的でした。「日本語学概論」とか「日本語史」とか。コースの科目に連続性があると感じました。

Cさん 私は「日本文学を読む」が面白かったです。古典文学に出てくる「鬼」といった語について辞書や文献で調べたのですが、漢字1つにこんなにも意味と歴史が詰まっているんだ！と、感動したのを覚えています。



将来の進路にどう役立つの？

下地先生 それぞれに印象深い授業があるのですね。他にも色々な知識やスキルを学んできたと思いますが、日本文化コースでの学びの中で、卒業後の進路を考えるのに役立った、役立ちそうということがあれば教えて下さい。

Aさん 日本語について体系的に学んだおかげだと思うのですが、私は、自然と自分自身の言葉を意識するようになりました。接客業のアルバイトをしている時も言葉づかいをよく褒めてもらえるので、自信ができました。だから将来も、人と関わる仕事がしたいと考えています。

琉球文化コース



- ☐ 日本文化学科には「日本文化コース」「琉球文化コース」「多文化間コミュニケーションコース」という3つのコースが設置されています。
- ☐ 1・2年生では幅広く3つのコースの基礎科目を学び、3年生になると専門のコースを選択して、卒業研究を行うための研究室に所属します。
- ☐ 3つのコースの魅力を各研究室生の皆さんに語ってもらいました！



琉球文化コースってどんなコースなの？

我部大和先生 琉球文化コースとはどんなコースなのでしょう？

Aさん このコースでは、琉球文学や琉球語学、芸能論などを学べるコースです。琉球の「ことば」によって創作された歌や踊りなどを授業で見たり、聞いたりすることで知ることができます。また、実際に琉球語を話す授業や組踊の唱えを体験する授業など多彩です。

我部先生 そうですね。このコースでは、琉球文化について様々な刺激を受けながら理解を深めることができますよね。



コースのおすすめ科目は？

我部先生 琉球文化コースの科目で特に面白かった授業を教えてください。

Aさん 「琉球文学特講」という科目が印象に残っています。主に組踊の歴史や台詞の言い回しや音楽、所作の表現を習います。また、実際に組踊の台本を読んで、実際の組踊の役になって台詞の唱えなども学べます。私は琉球舞踊を習っていたのですがなかなか組踊へ出演する機会などがありませんでした。実際に唱えをやることで、組踊の台詞は難しいけど、琉球語によって作られた演劇に実際に触れてみて、良い経験ができたと感じています。

我部先生 この授業を担当している宮城茂雄先生は、日文の卒業生ですね。また、現在でも組踊や琉球舞踊で国立劇場おきなわの公演などで出ており、第一線で活躍されていますよね。そういった意味では、実演でトップを走っている方に実際に講義をしてもらうって貴重ですね。

Bさん 「琉球語会話」という科目が印象に残っています。琉球語について琉球語と日本語に関する比較や琉球語の発音の特徴などを勉強しながら、実際の会話文の練習はもちろん、琉球語の単語などから琉球の風習なども学ぶことができました。ことばを通して沖縄の文化を学ぶことができる科目です。



将来の進路にどう役立つの？

我部先生 …私が担当しているのが出ていないのですが（笑）。まあ、私も皆さんの印象に残るようにしっかり頑張っていきたいと思います。ところで、

二人は琉球文化コースで学んだことを将来の進路にどのように役立てたいと考えていますか？

Aさん 私は琉球舞踊を習っていますが、これまではただただ曲と振付に乗せてだけ踊っていました。授業を通して踊りや歌詞の意味を知れば知るほど、自分の芸もステップアップしていくのを感じています。将来は、踊りや歌詞の意味などをきちんと教えることができる舞踊家を目指して頑張っていきたいと思っています。



Bさん 私は地元の公務員を目指しています。チャンスがあれば、文化財行政に関わりたと思っています。私は琉球文化コースの学びを通して、祭りなどの伝統行事にみられる言語文化を学びました。地域文化にかかわる仕事を通して、各地に残されている文化をどのように残していくか、残していくだけでなく、発展させていくかを考えていきたいと思っています。

我部先生 最後に受験生へのメッセージをお願いします！

A・Bさん 琉球文化コース、楽しいよー！

Bさん わかる！「話す力」ってやつだね。私も、人とのコミュニケーションがあまり苦手じゃなくなったと感じています。将来は国語科教員を目指しているので、生徒にきちんと伝えられる先生になれるよう、話す力をもっと高めたいです。

下地先生 二人とも日本文化コースでことばの力を高めることができたのですね。まさに、日文が掲げる「ことばのプロ」を目指して頑張っているのだと感じました。Cさんはいかがですか？

Cさん 私は「調べる力」です。気になることがあったらまず調べる、というのが当たり前になりました。それから日本文化コースの科目は“しっかり調べてじっくり考える”という内容の授業が多かったので、調べてそれで終わりにするんじゃなくて、深く考えるようにもなったと思います。この、調べて考えることって、どんな仕事にも役立つんじゃないかと思います。

A・Bさん うんうん。すごく分かる！

下地先生 今日は、色々な話を聞かせてくださりありがとうございました。これを読んでくれたみなさんが日文へ来てくれるのを楽しみにしています。

A・B・Cさん 待ってま～す！

多文化間 コミュニケーション コース



日本文化学科のいつもの授業風景



多文化間コミュニケーションコースってどんなコースなの？

奥山貴之先生 まずは4年生の皆さんからコースについて説明してもらいましょう。

Aさん このコースでは、文化的背景の異なる人同士の関わりについて学ぶことができます。文化と文化の接触で生まれる言葉や文化も含まれます。日本のことを海外の人に伝えたいという人や、海外のことに興味があって日本と比較したいという人もいますよね。日本文化学科の中では、海外留学をする人が多いコースだと思います。

奥山先生 日本語教師の資格を取る人も多いですね。



Aさん 私も、日本語教師資格をとっています。外国人（日本語が母語ではない人）に日本語を教える上では、日本語や日本文化を客観的に捉え、多文化を知ることが大切だって先生によく言われました。

奥山先生 そうですね。でも、自分の言葉や文化の客観視って難しいですよ。自分たちにとってあたりまえ過ぎて説明できないことが多くて。そういう意味で国内や海外で文化的背景の違う人(外国人など)と接触する経験がとても大切だと思います。

Aさん 私は学内の留学生と交流したり、留学したりして、そういう経験がたくさんできました。そこで自分の「あたりまえ」と他の人の「あたりまえ」が違うということに実感をもって気付きました。そういう交流って楽しいですけど、お互いに理解し合うって難しい時もありますね。

印象に残っている授業は？

Bさん 私は留学はしなかったけど、「コミュニケーションスキルⅠ・Ⅱ」でそういうことをたくさん勉強できたなあ。海外とかに限らず、世代間とか地域間、ジェンダー間のコミュニケーションにも課題や実践があることを学びました。

Bさん そうそう。「文化的背景が異なる人」っていても色々な人がいて、出身の国や地域、年齢や職業でも置かれている状況が違うし、勉強するまではそんなこと知らなかったよね。出身が日本でも色々な人がいるし。

Cさん 私も「ジャパノロジーⅠ・Ⅱ」が印象に残っているけど、他にも「多文化共生論」が面白かったです。ディスカッションがたくさんあって、毎回楽しい授業でした。

将来の進路にどう役立つの？

奥山先生 多文化間コミュニケーションコースでの学びの中で、卒業後の進路を考えるのに役立った、または役立ちそうということはありますか？

Dさん やっぱり、コミュニケーションを考える上で、自分のことと相手のことを知ることがとても大切だということに気付けたことが大きいです。そこから色々な具体例について学んだり、色々な人と交流したりすることで、自分や他者への理解が進んだと思います。

Cさん そうそう。コミュニケーション能力ってよく言うけど、それについてより専門的に理解できて、実践するための気持ちや能力が身に付いたと思う。どんな仕事をするにしてもすごく必要なことじゃないかな。

Aさん 私は、自分の知らない世界がたくさんあるってことを、理論的にそして体感的に学べたことが大きいと思っています。決めつけたりせずに、謙虚な姿勢で色々なものごとに対応できる考えかたや姿勢も、社会人としてとても大切だって感じています。

奥山先生 今日は、興味深い話を聞かせてくれてありがとうございました。これを読んでくれた高校生みなさんが、日本文化学科に興味を持ってくれるといいですね。

アドミッション・ポリシーは こう読んでほしい！

「アドミッション・ポリシー」とは、日本文化学科が受験生の皆様に求める能力や資質を示したものです。一般選抜試験はもちろん、総合型選抜試験や学校推薦型試験での書類審査・面接審査でも、このポリシーをどのくらい正しく理解しているかが問われます。毎年、受験生の皆様から多く寄せられる質問をもとに、日本文化学科の【ポリシーを読む上での注意点】を入試担当の山口真也先生から紹介してもらいます。

CHECK ! 日本文化学科では、「日本の文化」や「琉球の文化」を幅広く学びますが、「文化」という言葉はとても幅広いので、受験生の皆さんが学びたい「文化」と、日文中で学べる「文化」に【ずれが生じている】こともあるかもしれません。このリーフレットの最初のページにも書いているように、日文の専門的な学問領域は「言語学」と「文学」です。面接試験で「日本の歴史を学びたい」「沖縄の風習を学びたい」といった志望動機を語ってくれる受験生もいますが、例えば、「歴史に興味があって、近現代の文学作品にどのように社会背景が投影されているのか知りたい」「言語という視点から日本や沖縄の特性を考えたい」というように、言語学や文学との関わりを意識するとよいアピールになるでしょう。まずは自分が関心を持っている文化が日文のカリキュラムとつながるかどうか、しっかり考えて志望動機を深めていきましょう。



CHECK ! 「深めようとする」「目指す」「生かそうとする」…すべて【現在進行】で【前向き】な表現になっていることに気が付きましたか？ 日文中では、国語の先生や日本語教師、司書などの専門職を目指す人が多く受験しますが、「なりたい」だけでなく誰にでも言えますよね。真剣に将来の進路を考えているのであれば、現在進行形であるための努力をすでに始めてほしいと思います。職業に関する本を読む、採用試験の倍率や試験内容について調べてみる、など、いま努力していることがあれば、面接や書類でぜひアピールしてみましょう。

総合文化学部 日本文化学科

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てています。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力（読解力を含む）を身につけている人

総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

- ① 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
- ② 国語科教員、日本語科教員、図書館司書（学校司書を含む）、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
- ③ ボランティア活動、課外活動（スポーツ、文化活動ほか）などを通して、広い視野（多様性）やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

CHECK ! 総合型選抜試験Aの出願書類(活動報告)では「志望学科・アドミッション・ポリシーとの関連がある」活動履歴を書くようにという指示があります。これを見て、文芸部や演劇部、放送部など文系・表現系のクラブ活動以外は書いてはいけなと捉えてしまう人がいるかもしれませんが、日本文化学科のアドミッション・ポリシーには、文化活動だけでなく、【ボランティアやスポーツ】などで得た知見を大学での学びに生かそうとすることも挙げられていますので、それらもどんどん書いてアピールしてください。また、書類には「活動期間は高校入学以降」という指示もありますが、琉球芸能など幼い頃から継続して取り組んできたことは、高校時代の活動だけでなく、それ以前の受賞歴などを「上記以外で特記すること」の欄に書いてもよいでしょう。

Message 国語教師を目指す受験生の志望動機で多いものは、「国語が好きだから」、「国語が得意だから」というものです。好きなこと、得意なことが職業になるのは、良いことです。でも、少し立ち止まって考えましょう。好き・得意ということだけで、教師を目指すことは、生徒にとってどうでしょうか。国語教師は、国語の授業をととして生徒に「言葉の力」を身に付けさせ、生徒一人一人の言語生活を豊かにしていくための「教育」を行うのです。国語を通して、どのような「教育」を目指し、何を「実践」しようとしているのか、高校生なりの考えが聞きたいものです。

◎面接試験で気をつけて欲しいこと： 国語教師になるためになぜ日文中に入学したいのか、よく考えましょう | 国語教師の仕事を具体的に調べましょう | 国語教師になるまでのプロセスをよく理解しておきましょう | 国語教師になるために今頑張っていることは何ですか。国語の学習を頑張ることとは当然です | どんな「国語」教師になりたいのかを考えることはとても重要。でも、だいたいの回答は、「国語」とは関係がなく、「やさしい先生になりたい」「生徒の気持ちを大切にしたい先生になりたい」というものです。「国語」という教科の教師になることを掘り下げてほしいです。

日本文化学科には、国語科教員課程、外国人に日本語や日本文化を教える日本語教師課程、さらに図書館サービスを担う専門職である司書課程が設置されています。担当の先生たちから受験生へのアドバイスをいただきましたのでご紹介します！



CHECK ! ここでは、毎日の授業や課題に主体的に取り組むことができる人であるかどうか、が問われています。大学は、誰かに強制されて学ぶ場ではなく、主体的に学ぶ意欲が求められる場です。そのための「学習習慣」とは、成績はもちろんですが、【出欠の状況】も含まれています。入試までの期間はもちろんです、合格が決まった後も、学習習慣が崩れないように、一日一日の授業を大切に高校生活を送ってください。

CHECK ! え！、と思う人もいるかもしれませんが、日本文化学科ではパソコンを使う授業が意外にたくさん開講されています。例えば、言語学の卒業研究では様々な情報処理（データ分析）を行いますし、図書館情報学の授業ではデータベースやプログラミングの知識も身に付けていきます。レポートや卒業論文に必要な文献を徹底的に集めるための情報検索のスキルも1年生から身に付けられるようにトレーニングを重ねていきます。こうした情報処理能力は、将来、みなさんがどのような進路に進むとしても役に立つ社会人基礎力の1つです。【上級情報処理士資格】をはじめとしてビジネスシーンで役立つという資格も取得できるようになっています。

「民話劇・鬼慶良間」 1年生全員での舞台づくり

「ことばのプロ」を目指す日本文は1年生の春から、11月の大学祭での舞台上演に向けてのトレーニングを開始します。この舞台は「民話劇・鬼慶良間」といって、30年近く前から日本文化学科の1年生が毎年取り組んでいる伝統行事です。フリーアナウンサーで日本文化学科の先輩でもある佐渡山美智子先生のご指導の下、代々引き継がれている1冊の台本をもとに、演出方法、舞台装置、衣装やメイク、効果音などを「ゼロ」から考えて舞台を作り上げていきます。会計や練習場所の確保など裏方の仕事もちろん担当します。このプロジェクトを通して、舞台上で思いを伝える表現力はもちろん、ことばをつかったコミュニケーション能力も高めていきます。



1990年代後半からの鬼慶良間想い出のアルバムです。国語の先生になった卒業生も多いので、皆さんの学校の先生が見つかるかも！

■コロナ禍に見舞われた2020年度はYouTubeで鬼慶良間を期間限定公開しました。2021年度も完全な形での上演はできませんでしたが、【朗読劇】という新しい表現にチャレンジし、「鬼慶良間」という大切な伝統を次の世代につなげることができました。次は皆さんの出番です！！



Message 「日本語教師」という職業に興味がある受験生に、日本語教師になりたい理由を聞いてみると、「日本語のすばらしさを伝えたいです」と話してくれる人がいます。でも、ちょっと待ってください！！ その理由の中に、日本語を学ぶ人（「学習者」）のことが入っていますか？

日本語教師は、学習者の「日本語を学ぶ理由」に注目します。日本語学習者は本当に多様で、日本国内だけでも、外国から両親に連れられてきた子ども、留学生、仕事で来た人など、もっと色々な人がいます。そして、立場によって学ぶ理由は異なります。その学習者の学ぶ理由を踏まえていない日本語教育を行った場合、どうなるでしょうか。

また、「日本語のすばらしさ」という考え方は日本語教師に必要ありません。なぜなら、それはあくまで主観だからです。日本語も他の言語も様々な特徴がありますが、それをどう感じるかはその人次第です。日本語教師にとって必要なのは、日本語や他の言語の客観的な特徴と相違点を把握しておくことです。それにより、個々の学習者にとって日本語がどのような言語かを踏まえた日本語教育を考えられます。

日本語教育に興味がある人は、是非、学習者のこと、日本語教師の社会的な役割などについて考えてみてください。

そして、日本文化学科(日文)への志望動機は、日文は「日本語教師の資格“も”とれる」ところだと理解して考えましょう。資格と大学を卒業するためのカリキュラムは別のもので、だから、日文のカリキュラムで学べることが日本語教師の知識や技能にどう繋がるかを話せないと日文の志望動機にはならないんですね。以上を踏まえて、さらに今現在の日本語教育に関わる具体的な努力や実績をアピールできると、もっといいですね。



先生たちが持っている本は、専門職について知るための**おすすめ本**7月と10月に開催されるオープンキャンパスで展示しているのでぜひ見に来てください！

日本文化学科は「**本を読む学科**」です。1年生の夏休み前には、毎年、各分野の入門書や先生たちが大学時代に読んだ本を載せたブックガイド『にちぶん 本の羅針盤』を配っています。



Message 「図書館が好き、本が好き、だから私は司書になりたい」という人がときどきいますが、図書館が好き・本が好きなだけならば「利用者」として図書館と付き合っていけばよいのではないのでしょうか。司書になった後にどんな仕事をしたいといけなのか、どのような社会貢献ができるのか、司書の仕事にどのような魅力を感じるのか…。

志望動機を深めるためにはまずは、司書という職業の社会的な役割・ミッションを知ることが大切です。沖縄の社会が抱える課題と司書の役割を結び付けて考えることもできるでしょう。ヒントは図書館の本の中に無数にあります。図書館をたくさん使って、司書という仕事の理解を深めてください。

◎面接試験で気を付けてほしいこと：面接試験で「志望理由を教えてください」と質問すると、「図書館で働きたい」「図書館のことを勉強したい」と答える人がたくさんいます。そう答えた人には次の質問として、「日本文化学科のカリキュラムを通してどんな専門知識を身に付けて、どんな司書になりたいと考えていますか？」と聞くようにしています。そうすると、とたんに何も答えられなくなってしまう人がいます。司書資格は、日本文化学科以外の学科でも取得可能です。面接では、司書志望のあなたがなぜ日文でなければならないのか？、が問われています。専門的なカリキュラムのどの部分に興味があるのか、専門的な学びが司書になる上でどう役立つと考えているのか、自分の言葉でしっかり説明できるようになりましょう。

日本語教師課程 from 奥山貴之先生

図書館司書課程 from 名城邦孝先生

日文系サークルも充実

大学生活を充実させるためにはサークル活動も大切。日本文化学科の先生たちが顧問を務めるサークルをいくつか紹介します！



【放送研究部】 アナウンスや朗読の他、映像・音声作品(ラジオドラマ/MV)にも力を入れています。N コンの常連校としても知られていて、昨年はラジオドラマが本選通過しました！(顧問：奥山貴之先生)



【芸能文化サークル《ピリカウタリ》】 沖縄に限らず、様々な地域の芸能文化を題材とした舞台制作やイベント企画を行い、その中でバックグラウンドの違う多くの人達と交流することを活動の柱としています。このサークルの活動の柱に、メンバーの「やりたい！」と思うことを絡めて形にしていける事を目標に、日々活動しています。(顧問：奥山貴之先生)

【文芸部】 本が好きで、自分でも詩や小説を書いてみたい！という学生が集まっています。『沖国大文学』という作品集を刊行している他、個人誌も多く制作しています。イラストが得意な部員もいて、作品集の表紙やデザインに力を発揮してくれています。(顧問：村上陽子先生)



【琉球芸能文学研究会】 日文の学生がたくさん所属している学生サークルです。今年度で創立 20 周年を迎えます。流派や会派にこだわらず、学生らしいエネルギーギッシュな舞台づくりをしています。年一回の定期公演「双葉踊り」は、いつも好評です。昨年は YouTube での配信も行いました。韓国や石垣島への遠征も行っています。(顧問：田場裕規先生)



沖国大ラジオ講座もおススメ！



毎週水曜日 18:30~18:45、ROK ラジオ沖縄にて「沖国大ラジオ講座—万国津梁を目指して—」が放送されています。日文の先生たちが出演した回を聴くと、日文での学びのイメージがより深まります！ 過去の放送分はポッドキャストで配信中です！ (過去 2 年間分の放送より)



我部大和先生「琉球王国時代の史料などからみえる琉球舞踊・組踊について」



安志那先生「社会と文学が交差する場〜『老人文学』を見つめる」



奥山貴之先生「それぞれにとっての日本語」



下地賀代子先生「しまくとぅばの「これまで」と「これから」



山口真也先生「もっと知って欲しい図書館と本の世界」



村上陽子先生「文豪・夏目漱石を知る！」

もっと知りたい日本文化学科！
SNS とブログで最新情報を入手してね



Twitter



ブログ



Instagram



■表紙のイラストを作成してくれたのは 2020 年度卒業生の伊藤沙世さん(与勝高校出身)。ほかに「@いらすとや」さんからも画像をお借りしました。
■このパンフレットはユニバーサルデザインフォントを使用しています。